

令和3年度スーパーグローバル大学創成支援事業プログラム委員会 議事概要

1. 日 時：令和4年2月15日（火）15:30～17:30

2. 形 式：オンライン会議

3. 出席者：

（委員）明石 委員、岡島 委員、小川 委員、帯野 委員、梶山 委員、木村 委員、
黒田 委員、日比谷 委員、マルクス委員、米澤委員

（文部科学省）里見 大臣官房審議官、塩野谷 高等教育局高等教育国際戦略 PT 総括補佐、吉岡
国際企画室専門官 ほか

（事務局）山本 独立行政法人日本学術振興会人材育成事業部参事、遠藤 大学連携課長、持
田 同課長代理 ほか

4. 概要

（1）大学の国際化施策の最新状況について

「資料1 大学の国際化にかかる施策の最新状況」に基づき、文部科学省から説明があった。主な意見は以下のとおり。

- ・成果指標の目標達成大学数を見ると未達成の大学も多く、国際性に関する指標については今後の伸び代があるのではないかと。ロジックモデルを基に明確な戦略を作り、ステップ・バイ・ステップで目標達成に向けて邁進すべき。これまでの成果として、アウトプットが多く紹介されたが、アウトカム、またそれがもたらすインパクトについても議論できれば望ましい。
- ・留学生の入学制限緩和をより一層進めるべき。留学生の入学が、国の施策の中で後回しにならないよう主張していくべきである。
- ・国際卓越研究大学制度等、新出の大学改革や研究大学創成事業に、SGU、特にタイプA採択校の経験をつなげていければ良い。
- ・オンライン留学等の普及によりバーチャルに国際経験ができる可能性が広がった。JV-Campusをはじめとする国際化促進フォーラムで見られたように、良い取組を横展開し、全ての高等教育を受ける学生が国際経験をしていくように後押しできれば良い。SGUを残り3年でどのように決着させていくのか、どういう形でより幅広く支援をしていくかを考え、整理していくことも重要である。

（2）令和3年度フォローアップ結果について

「資料2 令和3年度フォローアップ結果」に基づき、事務局から説明があった。主な意見は以下のとおり。

- ・ガバナンス改革関連で、学長の思いがどのように大学を変革していったか、またそれがどう国際化につながったのか、成功事例を紹介し後に続く大学が出ることを期待する。
- ・学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組について実績値が芳しくないが、就職

時に求められることから一般の大学でも実績をだしているところが多い。SGU の目標値が高すぎるのが原因か。目標と実績が乖離しているのが懸念点である。

(3) その他

- 「『スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会』の審議内容等の取扱いについて」（平成 26 年 4 月 8 日スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会決定）に基づき、非公開。